

JRC2019 ITEM のおまけ

小樽掖済会病院 平野雄士

年度替わりは忙しいからと理由をつけて、今年は横浜の参加は無理だろうなと思いつつ、いざ4月が近づいてくると、ソワソワしてくる。いや、仕事の日程が厳しくなるからと今年こそは行くのを辞めようと思いつつ、4月上旬何故か私は横浜に居た。まあ、色々あるわけですよ。発表もしないのに一般演題に手を挙げたり。何やら怪しい会に参加したり。

普段はろくに歩くことなく毎日を過ごしているため運動不足で困っていますが、学会中はITEM会場、発表会場と歩き回り一日で2万歩近く（dヘルスケア調べ）歩きました。最終日はクタクタです。それでも悩んだ末に参加して結果どうだったかという、「いつもより面白かった、来て良かった」というのが私の感想です。

今回はAIと線量管理の進化が注目でした。AIといってもAIの使い方が様々です。CANONの代表格はCTの再構成に用いている「AiCE」です。MRIにもDLR（Deep Learning Reconstruction）を用いるようです。他に解剖のアシストや解析、病変検索の補助にAIを用いている部分もあり、想像以上に進んでいる感じがしました。あまりのんびり感覚ではいられない進み方です。（他社も含めて）

MRIでは別にMRシアターの体験をしました。（写真1）これはMRの撮影中、眼前にプロジェクションマッピングの画像が広がり、狭いMRガントリー内が広大な景色の映像に囲まれるというモノです。閉所恐怖症の人でも安心して検査を受けることができます。もしかしたらショートムービーでも観るようになるかもしれません。

今回はとある事情から、各社のアンギオ装置を重点的に見て回りましたが、CANONの「Alphenix（アルフェニックス）」は「Aquilion ONE」と組み合わせてAngio CTとして展示されていました。こんな贅沢ありか？と思ったが、進歩とはそういうことなのかもしれません。

CANON のブースは Collaborative imaging と題して、臨床、ワークフロー、経営の観点から統合的に技術を提案するという、少し観念的なプレゼンが行われていました。解説には役者の卵（俳優さん？）を擁し、名前は聞きませんでした。恰好のいいプレゼンでした。（写真2）どこかで見かけたら応援しましょう。偶然居合わせた私も一緒に写真を撮って頂いたのだが、その写真は手に入らず、代わりに T 社長と、M 下さんとの 3 ショットです（写真3）。横浜に来なければ残せなかった、これも貴重な一枚ですね。

今回、面白いと思ったのは各社同じ方向に向かっているのではなく、色々な方向にチャレンジしている様子を沢山見れたからです。島津の近赤外光カメラシステム、コニカの「KINOSIS」、GE の AIR コイル、みんな頑張っていますね。我々も頑張ります。



写真1) MR シアター：
眼前に広がる街並みや広大な風景は
閉塞感を打破します。

写真2) プレゼンしていた役者さん：
セリフ覚え完璧で靴を履き替えるときに
撮影。応援しましょう。





写真3) T社長とM下さんと私：
横浜に来なければ残せなかった貴重な一枚。